

令和6年度保健師職能だより

あいさつ 保健師職能委員長 藤谷明子



保健師職能の令和6年度の活動方針は、1)保健師の専門性を活かし、各分野において、全世代の地域包括ケアを推進する。2)会員の拡大を図ることの2点を掲げ、活動目標は、「保健師・助産師・看護師の連携、多機関で働く保健師間の連携強化」、「保健師職能の専門性を追求する（スキルアップ、課題の明確化）」を掲げて取り組んでいます。

令和6年は年初めに「能登半島地震」が発生し、県内多くの保健師が被災地への支援に尽力してきました。近年、自然災害はどこでも、いつでも発生しています。我が島根県でも例外ではなく、毎年水害等の被害にあっています。このため、保健師・助産師・看護師合同研修会では、能登半島地震への被災地支援活動と今後の取り組みについて学びました。健康危機管理対応については、今後も、保健師として何をすべきか、行動に繋がる研修等の充実を図ってまいりたいと思います。

「2022年保健師の活動基盤に関する基礎調査（後頁参照）」における「保健師活動の課題と今後の取り組み」では、「対応するケースや業務が複雑・困難になっている」、「日々の業務をこなすことに追われている」、「保健師のマンパワーが不足している」、「保健師としての能力不足を感じる」が上位になっていました。今後の保健師職能委員会での活動も、調査結果を踏まえた研修企画等を検討したいと思います。会員にとって魅力ある研修や活動をし、一人でも多くの方に会員になって頂けるよう努力をしております。

そして、様々な各活動領域で働く保健師間が看護協会の強みを活かし、顔の見える関係づくりの構築や、他機関と連携した全世代の地域包括ケアの推進を目指していききたいと思います。

保健師職能委員の紹介

県内の保健師は企業、病院、教育機関、県、市町村と様々な機関で働いています。保健師職能委員は、現場のニーズに沿った活動をするために、様々な立場の保健師で構成しています。

堀江亜由美（松江市役所）、遠藤まどか（県央保健所）、板垣宏美（吉賀町）

矢吹衣理奈（松江生協病院）、下諸可奈絵（雲南保健所）、祝原あゆみ（島根県立大学出雲キャンパス）



保健師職能委員会って面白い！

- ・様々な機関、様々な立場の保健師と交流できて楽しいよ！一緒に活動しましょう
- ・各所属における情報交換しながら、企画・運営をしています
- ・ほかの職場の取り組みとか、全県の状況とか、全国の動きなどから自組織で活用できることのヒントをもらってます！
- ・様々な立場の保健師と出会えますよ！

保健師職能交流会

～多機関で働く保健師の顔の見える関係づくり～

令和6年6月16日（日）に、パルメイト出雲（パルメイトホール）にて保健師職能交流集会を開催しました。経験年数10年未満の若手を中心として、行政、病院、教育機関など各分野の現場で働く保健師15名、学生6名の参加がありました。



講演では、島根県看護協会前副会長 永江尚美氏から「2040年を見据えてこれからの社会に求められる保健師活動」をテーマにお話いただきました。15年後の社会や地域の状況、これから求められる保健活動などを学び、日々業務に追われている参加者も、それぞれが将来を見据え、現在だけでなくこれから何が大切なのかを考える機会となりました。

活動紹介では、「各職場における活動紹介&保健師の人材育成の取り組み」として、大学で働く保健師の立場から、島根大学松江保健管理センターの長廻久美子氏、病院で働く保健師の立場から、雲南市立病院の松浦秋湖氏、自治体で働く保健師の立場から、川本町役場の宮浦凜氏に、各職場の取り組みを報告していただきました。多様な現場で様々な健康課題に対応する保健師の活動を知り、連携の大切さを再確認し、人材を育成する立場と育成される立場の双方からお話を聞くことができました。

続いて実施したグループワークでは、人材育成をテーマとしました。年代や経験年数が近いグループ編成だったこともあって活発な意見交換がなされ、人材育成に対する思いやニーズなどに共感し、共有することができたと思います。行政、病院、大学といった様々な職場で働く保健師同士が広く交流し、学び合う場にもなりました。参加した学生にとっても保健師の生の声を聴くことができる機会であり、進路選択の参考となった交流会でした。

保健師職能研修会

～地域と職域の連携による働き盛り世代の健康づくりの推進～



令和6年10月20日（日）に「保健師職能研修会」を朱鷺会館（出雲市）大ホールで開催しました。当日は、16名の参加がありました。

始めに、全国健康保険協会島根支部の池尻好美氏から「協会けんぽデータからみた県・市町村の健康実態の現状と課題」と題して、特定健診結果（Zスコア）や医療費分析結果から現状や業種による課題等についてお話を頂きました。続いて、活動紹介として美郷町役場の岩谷真弓氏と奥出雲町の北原晴美氏に産業保健との連携した取り組みについて発表を頂き、グループ討議を行いました。グループ討議では、お互いの活動に関する情報交換のほか、講師等への質問が多く出て、講演や発表内容がより深まったり、自組織での活動に具体的に生かすことができるようになり、参加者にとっては満足度の高い研修となりました。

今後も、現場のニーズを把握しながら、今、保健師に求められる資質の向上を目指した研修会を継続的に実施していきたいと思っております。

保健師・助産師・看護師 3 職能合同研修会

～能登半島地震支援における活動の実際とこれから何をすべきか～

令和6年9月29日(日)、「保健師・助産師・看護師合同研修会」を朱鷺会館(出雲市)大ホールで開催しました。当日は、保健師19名、助産師16名、看護師・准看護師36名の計71名と多くの参加がありました。始めに、島根県保健所長会副会長(出雲保健所長)村下伯氏より、「能登半島地震における保健・医療・介護・福祉活動の実際と課題～健康課題と保健・医療・介護・福祉支援の対応策、そして今後検討すべきこと～」と題しご講演いただきました。今年7月に発生した出雲市日御碕地区の道路陥没・孤立に伴う関係機関と連携した活動等をふまえ、「平時にできないことは、有事にもできない」「様々なシミュレーションをして準備しておくことが重要」であることを石川県恵寿総合病院の業務継続計画に係る取組もご紹介いただきながらご教授いただきました。



活動紹介では、益田保健所の大場裕子氏、島根県立中央病院の大西絵峰子氏、島根大学医学部附属病院の森山詠美子氏、元CSいずも 穂なみデイサービスひかわの影山優芽氏より、保健師、災害支援ナース、DMAT、災害看護専門看護師等の立場から災害時何を考え、どう活動を展開したかご紹介いただきました。会場から様々な質問や感想が寄せられ、活発な意見交換を行うことができました。災害時に備えた3職能間の連携強化、専門性を発揮した活動の展開に繋がる有意義な研修となりました。

保健師・助産師職能合同研修会

～子育てにおける切れ目のない支援の強化に向けて保健師と助産師ができること～



令和6年8月25日(日)、今年で4年目となる「保健師・助産師合同研修会」を、朱鷺会館(出雲市)大ホールで開催しました。当日は、保健師9名、助産師15名、学生2名の合計26名の参加がありました。始めに、島根県健康推進課子育て包括支援スタッフ課長補佐の細田舞氏から島根県の母子保健の課題と今後の取組として、改定後の健やか親子しまね計画に基づく「プレコンセプションケア[※]の推進」、「こどもの生活習慣の確立」、「子育てに不安や孤独を感じる親に向けた支援の充実」についてご講演いただきました。

活動紹介では、比良助産院の比良静代氏、松江市こども子育て部こども家庭支援課の富村桂子氏から、日頃の取り組みと保健師・助産師の連携の重要性について報告がありました。グループワークでは、「保健師・助産師の効果的な連携をするために明日からすること」をテーマに意見交換をしました。

参加者からは、「父親への育児支援の重要性が分かった」「実際の活動について情報共有できてよかった」「今後の取り組むべき方向性について改めて確認できた」「できることから一つずつ取り組んでいきたい」など、活発な意見交換ができ、有意義な会となりました。今後も保健師・助産師職能合同研修会を重ね、保健師と助産師が顔の見える関係づくりを深め、切れ目のない支援の強化に向けて力を合わせていきたいと思えます。

日本看護協会

2022年「保健師の活動基盤に関する基礎調査」結果一部抜粋

日本看護協会への加入状況と認知度等

公益社団法人日本看護協会は、2022年「保健師の活動基盤に関する基礎調査」（厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業）を実施しました。その結果の詳細は、日本看護協会ホームページ等で公開されていますのでご覧ください。今回、この調査の内看護協会への加入状況と認知度のみ島根県の集計結果についてお知らせします。なお、「島根県版調査結果」のすべてについては、改めてお知らせします。

【回答数】島根県全体の回答数は279件でその内訳は表1のとおりです。

【通算経験年数別割合】回答者全体の通算経験年数別の割合は図1のとおりで、一番多かったのは1～5年目の21.9%、次いで31年目以上で18.3%、中堅時期と言われる11～15年目、16～20年目はそれぞれ10.4%、6.8%と低率であった。

表1. 活動領域別回答者数・割合

	回答数	割合(%)
島根県全体	279	100.0
行政	241	86.4
産業	6	2.2
医療	13	4.7
福祉	8	2.9
教育	5	1.8
その他	6	2.2

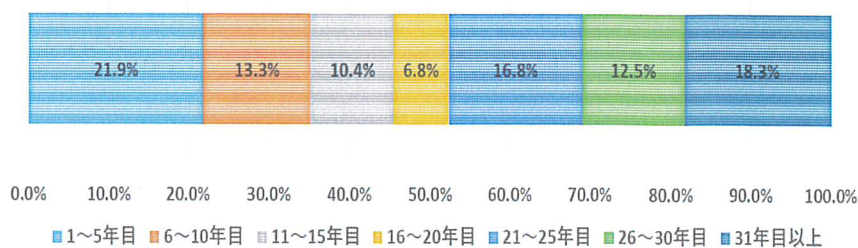


図1. 通算経験年数別回答割合

【看護協会加入割合】回答者の内、看護協会会員は52.7%、非会員は47.3%であった。半数程度の方が協会へ加入されていない現状が明らかとなりました（図2）。

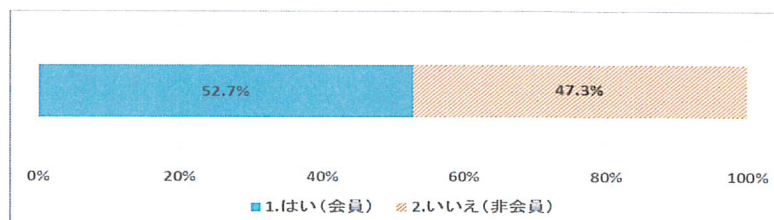


図2. 日本看護協会加入状況

看護協会活動の認知度「国への要望活動」！これからの皆様の声を国に届けます

【看護協会活動の認知度】看護協会活動の認知度を見ると、「国への要望活動」、「保健師活動のスキル向上のためのオンデマンド研修」、「自治体保健師確保のための魅力・情報発信事業」、「地域課題の解決に向けた事例検討会や実践力アップ事例検討会の手引きの周知・普及」などが高かった（図3）。

国への要望では現在も「保健師活動指針改定に向けた意見具申」「産業保健分野における保健体制の

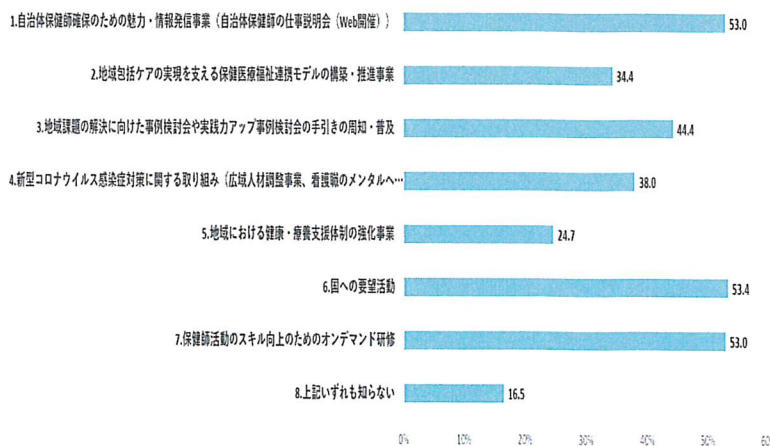


図3. 日本看護協会活動の認知度

看護協会に入会して、みんなでつながりましょう

強化」など、島根県の保健師の皆さんを含めた全国の声を集約して、厚生労働省に働きかけをしています。また、現場で活動できる手引書やその活用の普及、保健師確保に向けた取り組みなど皆さんと一緒に今後も活動を充実すると共に、積極的な情報発信の必要性を再認識しました。

【看護協会未入会の理由】

看護協会未入会の理由で一番多かったのが、「会費が高い」次いで「入会の必要性を感じない」であった。1割程度「先輩等の入会が少ないから」「これまでに、入会の勧誘を受けたことがないから」があった

(図4)。

入会の必要性や入会への勧誘については今後も積極的に情報発信をしていく必要があると思いました。

【現在の保健師活動の課題】

日ごろの保健師活動を実践している中で「最も課題や問題と認識している」事柄、または「次に課題や問題と認識している」事柄として多かったのは、「対応するケースや業務が複雑・困難になっている」が最も多く、次いで「日々の業務をこなすことに追われている」、「保健師のマンパワーが不足している」であった(図5)。

今後、現場で働く保健師が課題と思っている事柄を拾い上げ、保健師職能としてできることを考えていきたいと思えます。

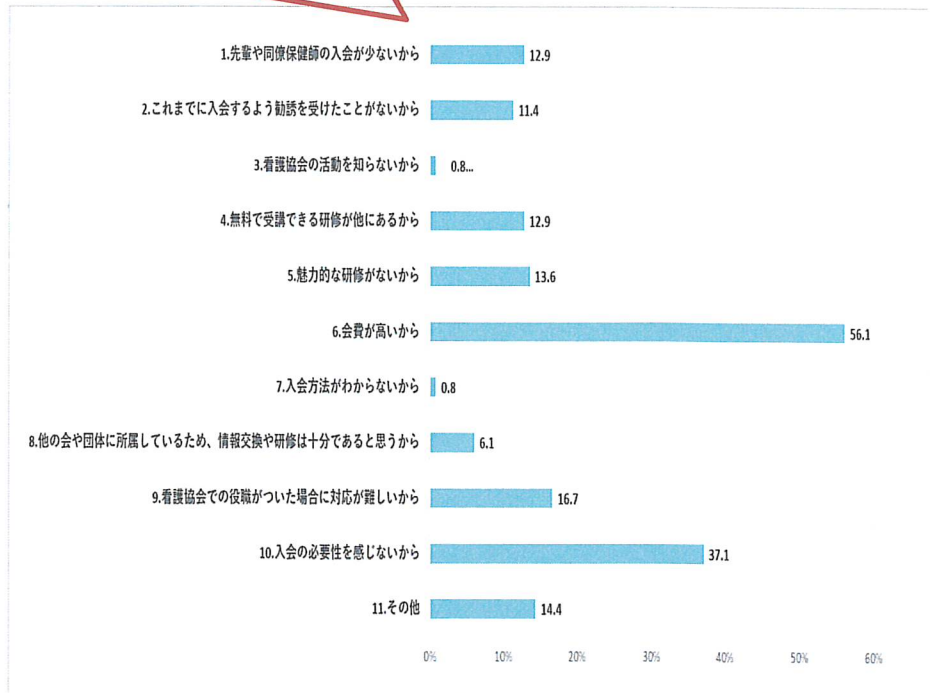


図4. 日本看護協会未入会理由

保健師は、複雑・困難な業務に追われながら頑張っています！

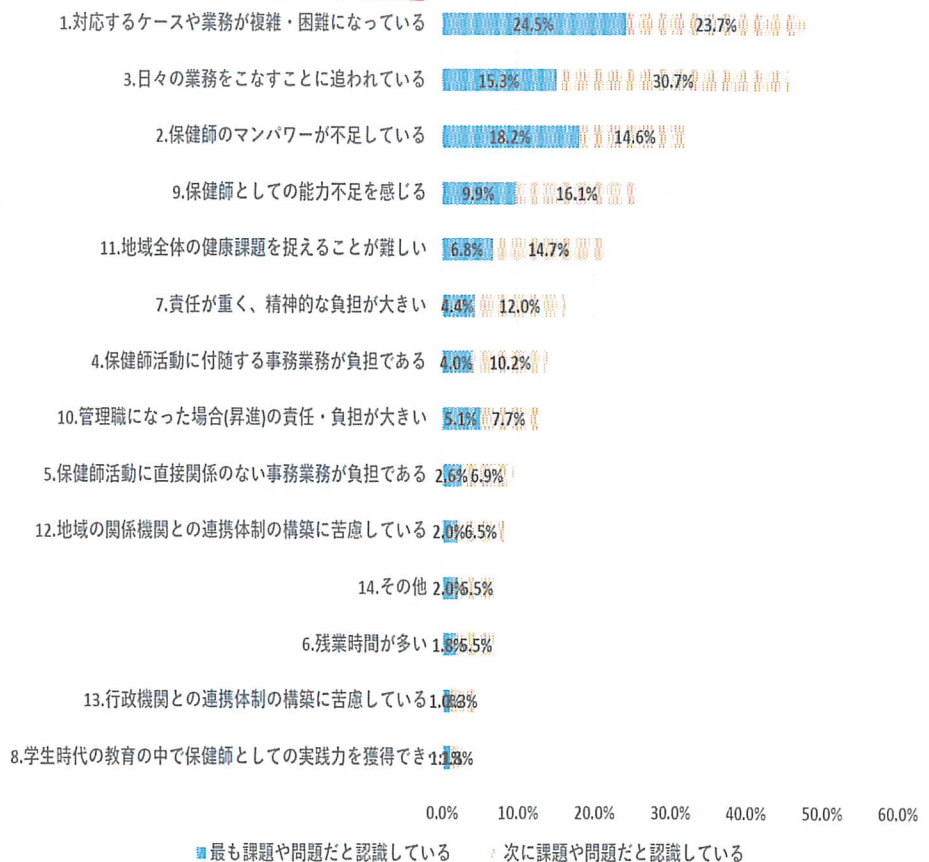


図5. 現在の保健活動における課題

令和7年度の活動計画

誘い合ってみんなで参加しましょう

島根県看護協会保健師職能委員は、島根における「地域包括ケアシステムの推進」「会員の拡大とネットワーク化」を目標に活動を進めていきます。現場の保健師の皆様の声を聴きながら活動をしますので、多くのご参加と様々な声をお聞かせいただきたいと思ます。

令和7年度の研修等事業も充実しています。是非、誘い合ってお出かけください。

研修名	開催日時	場所	テーマ（予定）
保健師職能交流集会	令和7年6月22日(日) 午前	パルメイト出雲	いきいきと働くための 人材育成と職場環境づくり
保健師職能研修会	令和7年7月26日(土)	朱鷺会館（出雲市）	災害発生時における初 動対応（図上訓練等）
保健師・助産師 合同研修会	令和7年8月24日(日)	朱鷺会館（出雲市）	プレコンセプションケ アについて考える
3職能合同研修会	令和7年9月21日(日)	朱鷺会館（出雲市）	日本看護協会「新看護 の将来ビジョン」を読み解く



看護協会のご案内



看護協会は、看護職の活動を支援する職能団体です。

仕事を始めてみると、さまざまな場面で立ち止まることも、「もっとよい看護がしたい」という気持ちが胸をよぎることもあるかもしれません。周りを見渡せば、同じ思いの仲間がきっと見つかります。ときには、大勢で知恵を絞り、時間をかけてじっくり考えるべき課題もあります。そんなとき、皆さんとともに解決策を見つける場のひとつが、私たち看護協会です。看護職員のキャリアアップに伴う処遇改善（賃金及び勤務環境の改善）などにも取り組んでいます。未来に向かって、一緒に歩んでいきましょう。



かんごちゃん
看護の日キャラクター

現場のさまざまな“困った”を解決するための活動

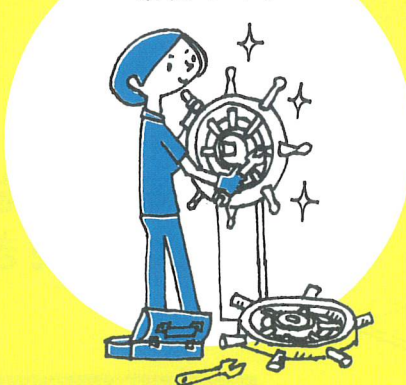
3つの使命

看護の質の向上



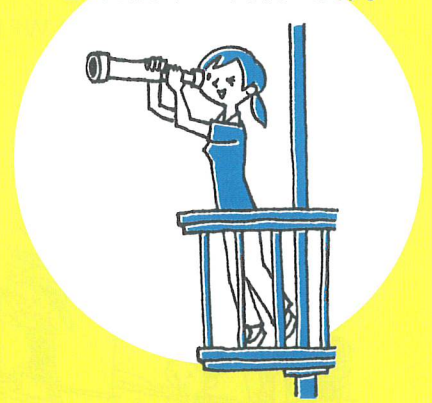
看護職の行動指針である「看護職の倫理綱領」をはじめとした指針・基準の公表や、認定看護師・専門看護師の制度の運用、特定行為研修制度の活用などの推進など、看護に携わる人のスキルアップのサポートを行っています。

看護職が働き続けられる
環境づくり



看護職のワーク・ライフ・バランスの推進や、再就業支援などを行っています。例えば、より負担の大きい夜勤・交代制勤務に関するガイドラインを作成し、その普及活動を続けています。

看護領域の開発・展開



看護職が関わる業務範囲や活躍の場の拡大のため、国への政策提言を行っています。また、都道府県看護協会と連携し、人々が最期まで安心して在宅での療養生活を送れるよう、訪問看護の推進や、大規模災害発生時に災害支援ナースを派遣するなど、災害時の看護支援活動を行っています。

都道府県看護協会・日本看護協会の会員特典

たくさんの会員特典をご用意しています！

万が一の時もサポート
看護職賠償責任保険制度への任意加入



質の高い看護を目指して
会員特別料金での研修・学会の参加



最新の看護情報を知る
機関紙「協会ニュース」のお届け



あなたのキャリアアップを応援
会員マイページ「キャリナース」の利用



約5万5,000冊を所蔵
看護専門図書館の利用



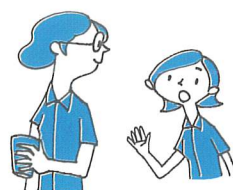
都道府県看護協会でもたくさんの
特典をご用意



入会方法

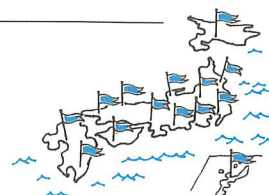
勤務先に施設代表者がいる場合

施設代表者に入会方法をお問い合わせの上、「入会申込書」をご提出ください。



勤務先に施設代表者がいない、現在、就業されていない場合

所属先やお住まいの都道府県にある看護協会にお問い合わせください。
または、日本看護協会のWEB入会もご利用いただけます。

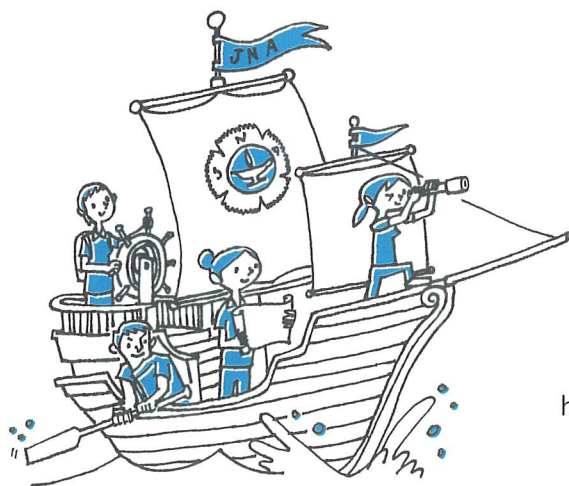


あなたの入会をお待ちしています！
ご入会の手続きはこちらから

日本看護協会WEB入会ページ



<https://www.nurse.or.jp/nursing/promote/nyukai/join.html>



〒690-0049

松江市袖師町7-11

公益社団法人島根県看護協会

TEL:0852-25-0330



生きるを、ともに、つくる。

公益社団法人 日本看護協会